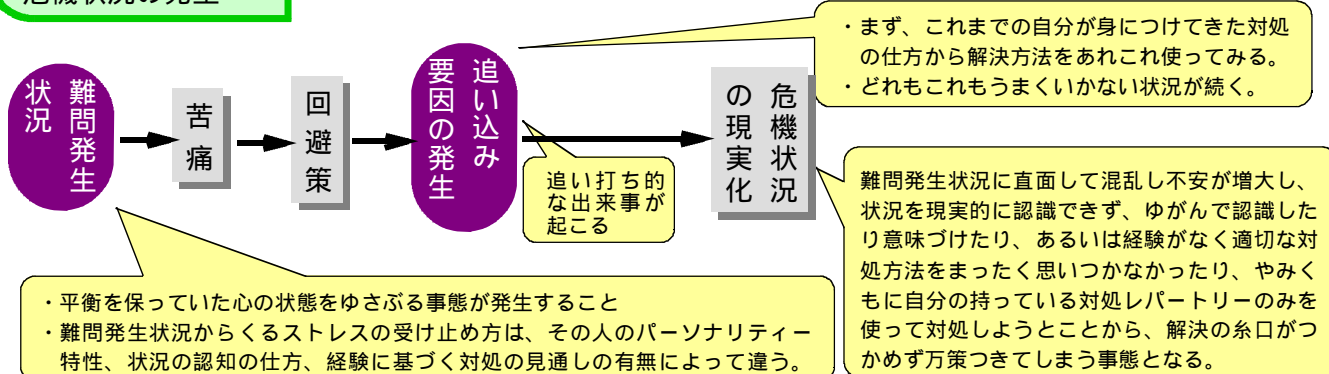


危機介入の手順

困難を抱え、苦戦状況にある児童生徒は、自分でも何らかの対策を試みます。しかし結局うまくいかず、打つ手がなくなってきた段階で相談します。いわゆる危機状況で相談するわけです。その際、危機介入の手順を知って対応することは、きわめて大切なことと言えます。

危機状況の発生



危機介入の手順

危機状況の理解 → 危機状況に至るまでの出来事を一つ一つ詳しく確かめ、捉える

時間の経過を追って確認する

- ・いつから混乱が発生したか？
- ・発生の契機になったと思われる事件、エピソードは何か？
- ・発生の契機より以前に生活上の変化があったか？

認知の仕方や意味づけについて確認する

- ・難問発生にいたる出来事と、さらに追い込み要因となった出来事をどのように考えたり受け止めたりしているのか？

どのような対処方法をとっていたのか確認する

- ・難問発生状況や追い込み要因となった出来事に対してとった本人の対処行動パターンはどのようなものか？
- ・その対処パターンは本人のパーソナリティー特性とどのようなかわりがあるのか？

どんな資源を用いて対処したかを検討する

- ・活用可能な人的・物的資源、環境資源（専門機関等）は何か？
- ・それらの資源と本人との関係（かわり方）はどうか？

危機介入の検討

まずは現状維持や困難状況発生直前の状況への回復をめざす

状況認知や意味づけを検討し、リフレーミングを行う

本人の自我資源を十分に使って、別の新しい対処方法を見いだす

利用可能な外的資源（相談相手、支援者、金銭や物資等）を考える

専門機関、専門家等と連携できるか検討する

【参考文献】 ・山本一郎『危機介入とコンサルテーション』ミネルヴァ書房2000